

農業技術

プリズム

落葉果樹は秋冬期に成長を停止させて休眠しますが、覚醒するためには一定の低温に遭遇する必要があります。低温遭遇が不足すると開花不良となり、安定生産ができなくなります。特に、近年は温暖化の影響によって冬季の気温が高く、低温が確保しにくいいため、施設栽培では低温遭遇状況を正確に把握してビニール被覆や加温を開始することが重要です。

そこで、施設栽培におけるオ

ハツモモ台「日川白鳳」の被覆や加温開始時期、授粉などの適期管理ができるように、DVR

桃の開花予測システム

休眠覚醒日と満開日 毎時気温入力で判断

ました。このシステムを用い、10月以降の毎時気温（実測以降は予測気温）を入力することで自発休眠覚醒日と満開日を予測できることが明らかになりました。予測した自発休眠覚醒日は、一般的に用いられている低温遭遇800時間（7・2度以下遭遇積算時間）との差が平均4・6日で、これまでの判断方法とおおむね一致しました。また、満開予測日と満開実測日との差はプラスマイナス2日で精度よく予測できました。

同予測システムは現在、現場に広く対応できる技術となるよう引き続き改良を重ねています。今後は温暖化に対応した施設栽培の安定生産技術に活用できるようにしていく予定です。

モデル（Developmental rate model）を用いた休眠覚醒時期と開花時期の予測システムを検討し

（果樹・茶研究部門 ビワ・落葉果樹研究室 松本紀子）